

研究計画書

ゼミ名	岡田ゼミ	チーム名	ちんねん
タイトル	日本におけるインクルーシブ教育		
テーマ群	f) 歴史・思想 g) その他		
メンバー	柏木晃輝、朝日翔太、島田樹、上野翔、元山貴弘、神山晨海、西川隼人、飯田爽太郎、多田羅滉太郎、石破航希		
研究計画内容	【研究背景】 近年、教育現場では「インクルーシブ教育」が重要な理念として注目を集めている。障害の有無や文化的背景の違いにかかわらず、すべての子どもが同じ学級で学び合い、共に成長することを目指す。この教育観は、単なる制度改革ではなく、社会全体の価値観の変化を映し出すものである。学校は「小さな社会」としての機能を持ち、その中での共生の実践は、将来の社会の在り方を先取りする試みといえる。しかし、教師への過度な負担、専門的支援の不足、制度設計の不十分さ、通常学級と支援学級の分断、保護者間の理解格差など、理想の実現を妨げる課題も多い。こうした現状を踏まえ、本研究ではインクルーシブ教育の意義と課題を多角的に検討し、共生社会における教育の役割を考察することを目的とする。 【研究内容】 インクルーシブ教育の定義と特別支援学校との違いを整理し、日本での制度導入の背景および文部科学省の定義を確認した。次に、理念と現場運用のギャップを分析し、イタリアやスウェーデンなど海外の取り組みと比較することで、日本の課題を明らかにした。さらに、小・中・高・大学の各段階における課題を整理し、大学の事例として甲南大学の取り組みを取り上げた。また、鈴蘭台高校で行われた教員発表会への参加や教育現場でのフィールドワークを通じて、現場の実践と課題を直接ヒアリングし、改善策を検討した。 【期待される効果】 インクルーシブ教育の実践により、児童・生徒は多様な仲間との関わりを通じて思いやりや協調性を育み、違いを尊重する態度を身につける。また、受け入れられているという安心感から自己肯定感が高まり、学習意欲の向上が期待できる。学級・学校全体では、互いの違いを自然に受け入れる雰囲気が生まれ、いじめや排除を防ぎ、温かい人間関係が築かれる。さらに、こうした学びが将来的に多様性を尊重する共生社会の形成へとつながると考えられる。 【参考文献】 KONAN Diversity and Inclusion 甲南大学 https://www.konan-u.ac.jp/konan_diversity/ 2025 年 10 月 14 日閲覧 まなびと Web マガジン 日本文教出版 https://www.nichibun-g.co.jp/data/web-magazine/manabito/inclusive/inclusive024/ 2025 年 10 月 14 日閲覧 文部科学省 — 1. 共生社会の形成に向けて https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/attach/1325884.htm/ 2025 年 10 月 14 日閲覧		